

一、この場面で大造じいさんはどんな作戦を立てましたか。

作戦に名前をつけよう

作戦の説明

二、前半と後半の、大造じいさんの残雪に対する気持ちや考えを比べましょう。

気持ちや考えが分かる言葉や文

一言で

思ったことや考えたこと

(後半)

(前半)

三、この場面の残雪についてどう思いますか。

一言で

理由

情報の取り出し

ここでは、対比的に情報を取り出します。

解釈

根拠をあげて推論することを解釈と言います。

熟考・論述

まず一言で表しておくと、理由を論述しやすいようです。

発表し深める段階の指導

文学作品とPIISA型読解力 ①

東田明治

ワーク課題①

①この場面で大造じいさんはどんな作戦を立てましたか。②前半と後半の大造じいさんの気持ちや考えを比べましょう。

(予想される子どもの考え)

教師の手立て

① タニシ作戦

タニシをガンの好みそうな場所にばらまき、あさりに来たところをうつ

手早く確認

② 気持ちや考えの対比

「うまくいったので、会心のえみをもらいました。」

発 うまくいくために何をしたの？

※ イメージを点から面へ広げる

C 夏のうちから……

・しめたぞ。もう少しのしんぼうだ。

・その翌日も、そのまた翌日も

・「うらん。」

・案の定

・またしても……してやられた

・その翌日も、そのまた翌日も

・うなって

・四、五日も

・うなって

・絶対成功するぞ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・絶対成功するぞ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

・うなって

・会心のえみ

深めるための発問

「『うらん。』と、うなってしまいました。」と前場面の「『うらん。』」思わず感嘆の声をもらいました。」を比べてみよう。

※五年生は一人なので、昨年の児童の意見・考えを紹介し、イメージを深めるのに役立てたり、多様な考え方があつたことを理解させたりする。

ワーク課題② この場面の残雪についてどう思いますか。

文学作品とPISSA型読解力

②

東田明治

ちいちゃんのかげおくり ⑤ 四の場面の1
 一、役わり読みをしましょう。次に一の場面の役わり読みをしましょう。
 くらべてちがうところはどんなところでしょう。

ちがうところ 気づいたこと

二、この場面のちいちゃんの気持ちを一言で表しましょう。

○ そのわけを書きましょう。

<解釈>

2つの場面を対比し、違いに気付くことも「解釈」と抑えたい。

<熟考・論述>

ちいちゃんのかげおくり

予想される子どもの考え

先生の手立て

・「ひとつ、ふたあつ、…」という声の出す順番がちがう。

・おとうさんたちのいる場所がちがう

・地面にうつっている影法師の数が違う

① 四つ
 ② 一つ

・くつきりと白いかげが四つ後の会話が違

深める発問①
 『地面に映っているかげぼうしは、①の場面とこの場面ではどうちがうでしょう。』

① 「
 ② 「たったひとつのかげぼうし」

(影法師の数が違う)

『どうして?』

(ちいちゃんがひとりぼっちになったから)

『お父さんたちはどこにいるの?』

()

深める発問②
 『「ひとつ、ふたあつ、…」という声の出す順番が
 『どうしてちがうの?』

()

()

()

深めるための発問③
 『くつきりと白い影が四つできた後の、会話を①の場面とこの場面比べてみましょう。』

① 「
 ② 「お父ちゃん」「お母ちゃん、お兄ちゃん」

(家族に会いたいというちいちゃんの強い気持ち)

発表し深める段階の指導

文学作品とPISA型読解力 ③

東田明治

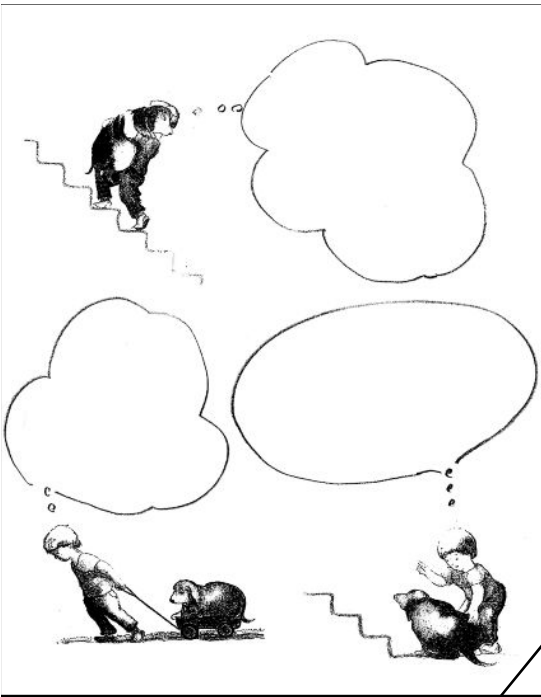
ずうっと、ずっと、大すぎだよ (NR&)

なまえ

1. としとったエルフにぼくがしてあげたことをかこう。37

--	--	--	--

2. ぼくになつたつもりでふきだしにことをばをかこう。



情報の取り出し

低学年では、ひとり勉強は情報の取り出しだけにし、解釈は先生と一緒にすることが多いです。

熟考

低学年では、先生やみんなと一緒に解釈したこと(イメージしたこと)をもとにして、自分の感想や考えを簡単にまとめます。

低学年では、挿し絵や吹き出しを使用し、効果的です。

ワーク③ 三場面の2

ずうっと、大すぎだよ
めあて：ぼくがとしとったエルフにしてあげたことを見つけよう。

ワーク課題① としとったエルフにぼくがしてあげたことを見つけよう。

(予想される子どもの考え)

しんばいした

じゅういさんにつれていった。

やわらかいまくらをやった。

ぼくのへやへつれて行ってあげた

「大すぎだよ。」って行ってやった。

(教師の手立て)

(イメージを深めるための発問)
どんなことしんばいしたの？

じゅういさんはなんていったの？

どうしてやわらかいまくらなの？

前はぼくがエルフのおなかをまくら……
(1の場面と対比)

エルフは自分でいったの？
どうしてぼくのへやなの？

深めるための発問

エルフの世話を一生懸命する「ぼく」をどう思いますか。

エルフは、ぼくのしてくれただれがへ一番うれしかったと思いますか。

ワーク課題② ぼくになつたつもりで、ふきだしにことをかこう。

文学作品とPIISA型読解力

④

東田明治

ごんぎつね ⑤ 五の場面

二、「ごんは」という主語の文をぬきだして、その時のごんの気持ちを考えましょう。

				「ごんは」という主語の文
4	3	2	1	
				ごんの気持ち

二、この場面のごんの気持ちを一言で表し、そのわけも書きましょ。

(はじめ)

(中)

(終わり)

情報の取り出し

ここでは、主述関係を意識させる課題とした。「ごんは」という主語の文にはごんの気持ちがよく表れている。また、隠れ主語にも気付かせたい

解釈

根拠をあげて推論することを解釈と言う。

熟考・論述

まず一言で表しておく、理由を論述しやすいですよ。

深める発問の例

課題一の発表の後、指導者の手立てとして深める発問をし、イメージを深めます。その後、課題二に取り組ませます。

ごんぎつね

予想される子どもの考え

- ・いどのそばにしゃがんでいました。
- ・二人の話を聞こうと思つて、ついて行きました。
- ・ふみふみ行きました。
- 「つまらないなあ。」
- 「引き合わないなあ。」

先生の手立て

深める発問①
『二人のどんな話を聞こうと思つているのでしょう。』
← 前時の復習
← 前時の二人の会話の部分を読まず
『ごんは二人の会話のどの言葉が気になつていたでしょう。』
()
← 深めるための発問②
『引き合うとは、相手に何かをしてあげたとき、それと同じだけ相手からお返しをもらうことです。ごんは何をしてあげたのでしょうか。何をお返ししてもらいたいのでしょう。』
← ()
← 深めるための発問③
『「加助のそりや、神様のしわざだぞ。」という言葉の後に、もし、ごんがこの場へ飛び出していったら、何を言いたいのでしょう。』
←